

第16回 国際花火シンポジウム

第16回、国際花火シンポジウム（16th International Symposium on Fireworks ; ISF）が、2017年4月26日～28日、花火で有名な秋田県大仙市の大曲で開催されました。1992年にカナダのモントリオールで始まったISF。日本での開催は2005年の滋賀県以来で、またしばらく機会がなさそうなので、私も参加してきました。

大曲は秋田駅からあきた新幹線で約30分、在来線で約50分内陸に位置し、1910年（明治43年）に花火競技大会が始まった縁で、花火の町として知られています。花火は、近くを流れる雄物川（おものがわ）の河川敷で打ち上げられ、今回のシンポジウムに合わせて花火大会も開催されました。せっかくの機会ですので、私も見学させてもらいましたが、間近に見る大型、そして高度な演出の花火の数々は、言葉を失うほどに美しいものでした。ぜひみなさんも一度、大曲へお出かけください。

今回は、日本の花火でもカナダの花火でも「和火（わび）」で演出されていたのが印象的でした。和火は、黒色火薬だけの光と色を楽しむ花火で、黒色火薬に含まれる炭の粉が熱くなって光ります（黒体放射）。バーベキューの火の粉と同じ、濃いめのオレンジ色なのですが、あとから煙火協会の方に聞くと、さいきん流行しているようです。代わりに、少し前まで流行していた青色の花火は、今回はあまり主張していませんでした。

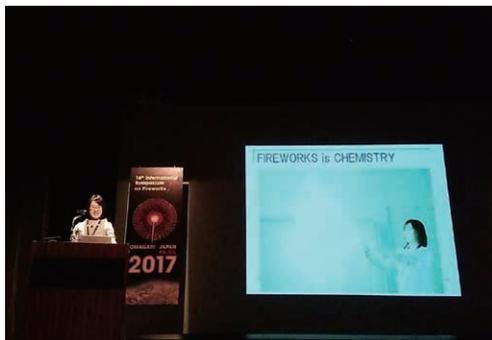


雄物川の河川敷(2017年4月25日)。
まだ桜が咲いていました。



4月25日の花火。日本(写真)とカナダの花火会社が打ち上げ。

さて私は、"Enjoying fireworks from chemical and educational point of view" と題して発表をさせてもらいました。国内での開催だから日本人の方が



発表のようす(撮影:会場で会った、いつもお世話になっている花火師の古賀章広さん)。

多いだろうと思っていたら、日本人は超少数派。世界中で花火が愛されていることを実感しました。発表では、今から(もう)17年近く前の2000年に開発したサイエンスショー「花火の化学」と、ここから発展した「花火×化学」の活動を報告しました。当初、サイエンスショーを実演させてもらえませんか?とリクエストしていたのですが、会場の都合で叶わず、そこでサイエンスショーの動画を見てもらうことにしました。

発表時間が30分間なので、断腸の思いで半分(15分)に編集して、英語字幕をつけた動画を作りました。

それがですね、思いのほかウケまして、発表が終わってからは、たくさんの人に声をかけてもらえるようになりました。オーストラリア、リトアニア、フィリピン、ブルガリア、イギリスなど、もちろん日本の方も含めて、たくさんの花火を愛する人と繋がるのができて、とても嬉しかったです。

また他の研究発表では、花火を数学の教材として活用している事例や(ベクトルなどの勉強が楽しくできるんです)、線香花火の火の玉の挙動(分裂の規則性や距離感など)、青い花火を作る方法(いろいろな銅の化合物での色の比較など)など、科学的なことも多く学ぶことができました。

「化学という視点でも花火を楽しむ、という新しい文化を作っていきたい」…これが私の希望であり、目標です。今回出会った世界中の仲間を心の支えに、私の「花火×化学」の活動を、これからも進化させていこうと誓った3日間でした。

このシンポジウムを機会に、サイエンスショー「花火の化学」をYouTubeで公開しています。詳しくは私の業務用ブログ <http://takegawayukiko-blog.blogspot.jp/> からご覧ください。

岳川 有紀子(科学館学芸員)